

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	協働の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	9	
政策	41計画の実現のために	担当課室	市民活動推進課			
施策	411地方分権と市民参加の推進	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民公益活動事業のさらなる推進のため、「市民活動応援補助金」の活用促進を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	市民公益活動事業のさらなる推進のため、「市民活動応援補助金」の活用促進を図る。また、次期「市民との協働戦略プラン」の策定に向け、準備を進める。
②①に基づく取り組み結果	「市民活動応援補助金」には7件の応募があり、そのうち6件を採択した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・自治会、市民公益活動団体、企業、市など多様な主体	意図(対象をどうするのか)	地域社会に共通する課題の解決や目標の実現に向けて協働の推進を図る。
②事務事業の概要	協働の推進を図るため、「鎌ヶ谷市 市民との協働戦略プラン(改訂版)」に基づき、各施策を展開する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化や地方分権の進展といった社会的変化などにより、地域社会を取り巻く環境は著しく変化するとともに地域課題も多様化しており、その解決において行政と市民との協働の重要性はますます高くなっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	既存の事業である「鎌ヶ谷市市民提案協働モデル事業」及び「鎌ヶ谷市市民活動支援補助金」を集約し、加えて複数年度の補助を可能とするなど、より活用しやすくなるよう制度を改正し、「鎌ヶ谷市市民活動応援補助金」として再構築した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	市民提案協働モデル事業完了報告件数	1	0	1	件	業務取得
	ii	市民活動支援補助金実績報告件数	3	2	6	件	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	836	2,004	金額(千円)	内容		4,631	
国支出金(千円)			1,334	市民活動応援補助金			
県支出金(千円)			136	協働推進委員会委員報償			
市債その他(千円)			514	市民活動総合保険			
一般財源(千円)	836	2,004				4,631	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民と市の協働により地域の課題を解決するため、さらなる市民団体との役割分担による事業の実施や、市民団体の活動支援を行う必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	少子高齢化や地方分権の進展などに伴い多様化する地域課題の解決のため、協働の重要性が高まっている。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	市民活動推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	9	
政策	41計画の実現のために	担当課室	市民活動推進課			
施策	411地方分権と市民参加の推進	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	「地域づくりコーディネーター認定制度」の運用により、コーディネーターの効果的な育成を図るとともに、「地域づくりコーディネーター」の実践活動の支援を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	「地域づくりコーディネーター認定制度」の運用により、コーディネーターの効果的な育成を図るとともに、「地域づくりコーディネーター」の実践活動の支援を行う。
②①に基づく取組み結果	市民活動応援補助金事業の支援内容に「地域づくりコーディネーターによる伴走支援」を設けるなどの活動の紹介を行い、3事業で活用があった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民公益活動団体及び市民	意図(対象をどうするのか)	市民公益活動を行う市民を支援するとともに、市民のまちづくり意識の醸成を図る。
②事務事業の概要	市民活動推進センターを拠点とし、講座やイベントの実施、情報発信等を通じて市民活動の推進を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化や地方分権の進展といった社会的変化などにより、地域社会を取り巻く環境は著しく変化するとともに地域課題も多様化し、その解決において行政と市民との協働の重要性はますます高くなっていることから、協働の担い手となる市民公益活動団体の強化や、市民活動を活発化させるための仕組みづくりが必要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市民活動フェスタなどをとおして市民活動推進センターの周知を行うとともに、プロジェクトマネージャーを市民活動団体へ積極的に紹介した。また、地域づくりコーディネーターを認定し、市民活動団体へ紹介した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	市民活動推進センター来所者数	5,010	5,977	6,256	人	業務取得
	ii	市民公益活動相談件数	100	126	155	件	業務取得
	iii	市民活動推進センターウェブページアクセス数	8,919	9,536	10,754	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,723	3,646	金額(千円)	内容	4,540		
	国支出金(千円)			1,414	プロジェクトマネージャー報酬		
	県支出金(千円)			1,334	講座委託料		
	市債その他(千円)			668	機器使用料		
	一般財源(千円)	3,723	3,646			4,540	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民活動推進センターのさらなる利用促進を図る必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民活動フェスタについて、市民と行政の協働の場として実施することから、従来の市直営から実行委員会形式へと運営形態を変更し、新たに負担金を予算計上したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	男女共同参画推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	9	
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	市民活動推進課			
施策	143男女共同参画社会づくり	担当課室長	小林 由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	男女共同参画社会を推進するため、表現ガイドの修正を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	庁内において、表現ガイドの認知度及び活用頻度が低いため、更なる周知を行い活用頻度の向上を図る。また次期推進計画策定に伴い、男女共同参画アンケートを実施する。
②①に基づく取組み結果	古い表現を見直すとともに、LGBT等の説明を新たに追加した。また、イラストなどを用いて分かりやすい表現の工夫を施した。平成31年3月20日付け、改訂版を庁内に通知した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	庁内各課	意図(対象をどうするのか)	職場や家庭、地域等様々な場での女性参画の推進を図る。
②事務事業の概要	男女共同参画推進を図るため、男女共同参画推進計画に基づく各施策を実施し、その進行管理を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全国的に人口減少している中で、家庭や職場、地域等あらゆる分野において男女が支え合いながら能力を發揮していく男女共同参加社会形成のため、全庁的に取り組む事業と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	男女共同参画推進計画の各事業について、関係各課と共同で取り組んだ。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	審議会等女性委員の割合	28.3	28.3	26.5	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	2,604	2,606	金額(千円)	内容	5,335		
国支出金(千円)			2,464	臨時職員賃金			
県支出金(千円)			129	懇話会委員報償			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,604	2,606			5,335		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	男女共同参画推進計画に基づき、事業を実施しているが、今後も男女共同参画意識の醸成を図る必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	令和2年度より次期男女共同参画推進計画の策定を行うにあたり、その準備のために委員会及びアンケート調査等を実施するための予算を計上した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	男女共同参画推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	9	
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	市民活動推進課			
施策	143男女共同参画社会づくり	担当課室長	小林 由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業の実施にあたっては、民間スキルを活用し、市民ニーズに合わせた事業を実施する。また、女性のための相談、DV相談に対応するため、庁内の連携を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	情報誌の発行回数見直しや内容等について、令和2年度から改定できるように、そのための検討・準備等を進める。
②①に基づく取り組み結果	民間スキルを活かした事業を実施し、充実した研修を市民の皆様へ提供できた。また、DV相談等関係各課と連携しながら対応した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・職員・事業所	意図(対象をどうするのか)	セミナーの実施や情報誌の配布により、男女共同参画意識の醸成を図る。
②事務事業の概要	男女共同参画推進センターの運営、男女共同参画推進を図るための講座や啓発事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民ニーズが多様化していることから、事業の企画立案にあたってはニーズに対応し、ターゲットを絞った事業の実施が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	男女共同参画の推進を図るための講座や啓発事業を実施し、男女共同参画意識の醸成を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	男女共同参画週間事業	353	237	130	人	業務取得
	ii	情報紙の発行	4	4	4	回	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	8,854	7,644	金額(千円)	内容		8,140	
国支出金(千円)			1,406	プロジェクトマネージャー報酬			
県支出金(千円)			2,793	非常勤職員賃金			
市債その他(千円)			2,179	委託料			
一般財源(千円)	8,854	7,644				8,140	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	男女共同参画を推進するため、講座や啓発事業の充実を図るとともに、ウェブページ及び広報誌等を活用し積極的なPRに努める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	各事業の参加状況やアンケート結果を踏まえ、課題を精査し次年度以降に活かしていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	人権施策に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	9	
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	市民活動推進課			
施策	411地方分権と市民参加の推進	担当課室長	小林 由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市川法務局管内で3年に1度担当する人権啓発イベント「ハートフルヒューマンフェスタ」を人権擁護委員と協働で実施し、人権尊重の意識高揚を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	ヒューマンフェスタなどの人権啓発活動を通じて、多様な人々への理解を深めお互いを尊重しあえるよう人権意識の高揚を図る。
②①に基づく取組み結果	「ハートフルヒューマンフェスタ」で朝日山親方をお招きし人権講演を実施。422人という多くの市民にご参加いただき人権尊重に対する意識を高めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	人権相談や啓発活動を通じて人権尊重を図る。
②事務事業の概要	基本的人権を擁護するため、人権擁護委員と連携し、相談業務及び啓発活動を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	近年、急速なネット環境の普及から情報の取得や拡散が便利になった反面、SNS等を介したトラブルからいじめや事件に発展するケースも増えてきた。人権擁護に関する啓発内容等も時代に即した内容を提供、発信する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	小学校では「人権教室」を、中学校では「人権講演会」を実施した他、人権相談や啓発活動「ハートフルヒューマンフェスタ」を行うことにより人権尊重意識の高揚を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i ヒューマンフェスタ		355	137	422	人	業務取得
	ii 人権講演会		714	716	482	人	業務取得
	iii 人権教室		1,319	1,167	1,294	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	677	766	金額(千円)	内容	779		
国支出金(千円)			190	需用費			
県支出金(千円)	223	331	346	負担金	330		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	454	435			449		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ネット上における人権侵害などトラブルの背景も変化しており、人権擁護に関する啓発内容なども時代に即したものを提供、発信する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	相談の利用状況、事業のアンケート結果を踏まえ、課題を精査し、次年度以降の事業に活かしていく必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	各種相談に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	12	
政策	41計画の実現のために	担当課室	市民活動推進課			
施策	411地方分権と市民参加の推進	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民が必要としている相談を引き続き精査し、拡充の必要性について検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	市民が必要としている相談を引き続き精査し、拡充の必要性について検討を行う。
②①に基づく取組み結果	今年度については要望がなかったため、拡充については見送った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	各種相談を通じて、安心した市民生活や市民福祉の向上を図る。
②事務事業の概要	市民が社会生活を営む中で発生する、人間関係や金銭トラブルなどの様々な諸問題の解決のため、各種相談を実施するもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化社会、高度情報化社会などの急速な生活環境の変化によって、相談内容も多岐多様となってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	各種相談の年間受付件数は448件であり、昨年度と比較して37件増加した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 相談件数	448	411	448	件	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	1,689	1,688	金額(千円)	内容	1,707	
国支出金(千円)			1,685	弁護士報酬		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	1,689	1,688			1,707	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民生活にかかる各種トラブルを解決していくために、今後も引き続き市民相談を提供する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	各種相談に対する市民ニーズが高いため、より効率的な体制を整える必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29→30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティセンターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	2	1	13	
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	市民活動推進課			
施策	141個性豊かなコミュニティづくり	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	指定管理者へのモニタリングや利用者懇談会等で利用者の意見を聞き、市民サービスを向上していく。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	引き続き指定管理者へのモニタリングや利用者懇談会等で利用者に意見を聞く他、公共施設予約システム導入への検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	モニタリングを実施し、指定管理者に対し、施設を適正に管理するための指導を実施した		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	コミュニティセンター	意図(対象をどうするのか)	市民相互の交流を深め、人間性豊かな地域社会の形成の場となるよう適正な管理運営を行う。
②事務事業の概要	コミュニティセンター及び軽井沢集会所について、市民の自主的活動の場を提供するため、施設の維持管理を行うもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民交流を深め、人間性豊かな地域社会づくりを進める上で、市民にとって身近な地域活動の拠点となっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	モニタリングを実施し、指定管理者に対し、施設を適正に管理するための指導を実施した						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	1施設当たりの利用者数	17,152	17,387	16,605	人	業務取得
	ii	1施設当たりの管理運営費	6,908	7,209	7,238	千円	業務取得
	iii	一人当たりの管理運営費	403	415	436	円	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	45,777	45,004	金額(千円)	内容	41,312		
国支出金(千円)	0	0	15,030	指定管理料	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	45,777	45,004			41,312		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	指定管理者制度が導入されている3館については、モニタリング等で指定管理者に対して適正な管理を行い、継続的に市民サービスの向上を図っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	コミュニティセンターは地域住民の活動及び交流の拠点となっており、高齢化が進むなか、地域住民にとっての価値が高まっているため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29→30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティセンター等改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	13	○
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	担当課室	市民活動推進課			
施策	141個性豊かなコミュニティづくり	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	鎌ヶ谷及び南初富コミュニティセンター多目的ルームの空調機改修工事を行う他、栗野コミュニティセンター空調機改修工事設計委託を行う。
②①に基づく取り組み結果	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	コミュニティセンター	意図(対象をどうするのか)	計画的に改修を行うことにより、施設の長寿命化を図る。
②事務事業の概要	公共施設の長寿命化に関する基本方針に基づき、経年劣化した施設の外壁、屋上防水、空調設備の改修を行うもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各施設とも建築年数が経過し、老朽化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事を行った。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 利用者数	102,911	104,319	99,627	人	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	17,064	10,400	金額(千円)	内容	4,820	
国支出金(千円)	0	0	10,400	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事	0	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	11,700	7,800			1,700	
一般財源(千円)	5,364	2,600			3,120	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	各施設の老朽化が進む中、不具合や故障が発生する前に予防的な改修を行うことにより、経費の抑制を図ることが課題となっている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	公共施設の長寿命化に関する基本方針に基づき、今後も計画的な改修が必要となるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	道野辺中央コミュニティセンター空調設備改修工事	18,974	16,831	当初	18,974	10,400	H29からの繰越
				H29⇒30繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分 10,400
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-2,143		
令和元年度への繰越額(単位:千円)							0